

麻機遊水地保全活用推進協議会 の取組



再生 目標

麻機遊水地に昔から暮らしてきた多様な生きものたちが、遊水地で生息・生育できる環境を再生していくことを目指す

麻機遊水地は静岡扇状地平野の北縁に位置し、標高わずか7m前後の低湿沖積地帯です。全国最大級のミスアオイの自生地として、また、タコノアシなどの絶滅危惧種が多いことから、「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」に選定されています。しかし、現在は植生遷移や外来種の移入・異常繁殖により在来種や絶滅危惧種などの生息・生育環境は失われ、また、雑排水の流入による水質悪化などに起因して、生態系のバランスが崩れ始めています。

麻機遊水地保全活用推進協議会では、「生命にぎわう わ(環・和・輪)の湿地麻機」を目指し、麻機の風土に刻まれた人と自然との関係を手がかりに、自然再生に取り組んでいます。

自然再生活動を地域の福祉活動と連携

協議会の中のベーター麻機部会では、この麻機の地域資源を活用、活かしていくために、遊水地や流通センターなどの周辺施設を地域交流拠点とし、障がい者や高齢者、地域、企業とも連携し、ドイツベーターのように誰もが生きがいや誇りをもって暮らせる共生社会の実現をこの麻機で実現するための活動に取り組んでいます。

